

## 会 議 録

<会議名称> 令和3年度 第2回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和3年10月12日(火)

<時 間>16時~17時

<場 所>岸和田市教育センター 2階 大研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

長岡校長	倉垣校長	尾崎教頭	上ノ山教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

和泉学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	八幡人権教育課長	角銅指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

西川教授
○

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 説明「市内の小中連携教育について」
3. 情報提供「他府県の小中一貫教育の先進事例について」
4. 意見交換等
5. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・主な市内校種間連携教育について
- ・西川教授 資料

## 1. 教育委員会挨拶

### 【和泉委員長】

こんにちは。学校教育部の和泉です。

前回に引き続きまして、何かとご多用の中、第2回岸和田市小中一貫教育推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。

10月も半ばになり、ようやく秋の気配が感じられるころになりました。今多くの学校では、運動会・体育大会や、修学旅行等の宿泊行事が実施されております。コロナ禍での実施になりますので、感染対策の徹底に向けて例年以上の労力でもって進めていただいております。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、この8月末に、今年度の全国学力・学習状況調査の結果が出されました。市の結果については現在分析を進めているところですが、これまでの調査結果からも明らかになっているように、子どもたちの学びの積み上げが大きな課題となっています。小学校6年間の学びを積み上げ、そして6年間の学びを次の中学校につなげていくことは、子どもたちの確かな学力形成には欠かせないことです。学力調査の結果は、当然さまざまな要素が関わっていますので、学びの積み上げということだけで学力を論じることはできませんが、大きな要因の一つではないかととらえています。この課題の解決に向けては、この会議で話し合われる小中一貫教育が一つの糸口になるものと考えています。岸和田の子どもたちのために、どのように小中一貫教育を進めることができるか、委員の皆さまのお知恵をいただきながら、考えてまいりたいと思います。

第2回目となる今回は、前回の会議をふまえて、市内の小中連携教育の内容や、他府県の小中一貫教育の先進事例を共有し、岸和田の小中一貫教育で、何ができるかを意見交換してまいります。委員の皆様におかれましては、本日も活発な意見を出していただきたいと思っております。

また今回も、学識経験者として京都産業大学の西川信廣先生にご参加いただいております。先生には、他府県の先進事例についてご紹介いただけるとのことです。この後、よろしく申し上げます。

それでは、短い時間ではございますが、充実した会議になりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 説明「市内校種間連携教育について」

### 【角銅委員】

(市内校種間連携教育について説明) 別添資料参照

## 3. 情報提供「小中一貫教育先進事例について」

### 【西川教授】

(小中一貫教育先進事例について情報提供) 別添資料参照

#### 4. 意見交換等

##### 【和泉委員長】

ただいまの校種間連携の説明や、先進事例の紹介について、質問等を出し合えればと思う。

##### 【長岡委員】

岸和田では、2006年から連携教育が始まっている。岸和田の現状はどのように見ているか。

##### 【西川教授】

最近の現状は知らないが、小中一貫教育として、注目できる情報は入ってこない。

小中一貫教育は教科の具体性が大事。行事をいっしょにやったり、キャッチフレーズを掲げたりするだけでは、なんちゃっての小中一貫になる。共通の子ども観はどういうものか、具体的に何ができる子どもを育てるのか。これは今の英語教育もそう。どんなことができる英語力をもった子どもを育てるのか。何ができる中学3年生になってほしいのかを、中学校区で共有されたらいいなと思う。多くの場合は、抽象的なキャッチフレーズだけになっている。

##### 【長岡委員】

好事例の中で、環境が充実している学校が多い。環境づくりは必須か。隣の和泉市でも数年前に視察に行かせてもらった経験がある。施設一体型小中一貫校が発足するにあたり、地域住民の大きな反対があったが、新築校舎が建設され校舎内の環境も最新のものを導入するという一方で、地域の理解がかなり深まったと聞いている。

##### 【西川教授】

必須ではないが、小中一貫教育は、見える化を意識することが大切。ただ単に教師の意識の中でつながろうとか、教室の中でこんな工夫していますだけではだめ。地域の方々や保護者に、小中一貫教育はどういうものかが分かるように見える化することが必要。具体的に言うと、吹田の千里みらい学園は、年間20回金曜日登校を始めた。毎週金曜日に6年生は中学校に登校する。それを中学校の生徒会の生徒たちが出迎える。次第に地域の見守りが始まる。これが、小中一貫の見える化につながった。6年生が年間20回も中学校に来ている。すごいことをしているんだな、と言う。見える化することによって、保護者や地域の方々の支援を受けられる。教室の中だけの取組みではだめ。

ただ、分離型の小中一貫校では管理職の負担は増えた。京都市立東山泉学園は施設分離型の5-4制小中一貫教育校だが、校長は、午前は東校舎で午後は西校舎に移動するといった動きをしている。

##### 【川本委員】

制度を変えることも大事。一方で、人を増やして、働き方をどうするかということも大

事。小学校では 35 人学級がようやく実現されるが、その中できめ細やかな授業を進めていくためには、やはり人が必要。学校の生徒のスケールが必要。小中一貫校でも、ある程度の規模が必要だと思う。

**【西川教授】**

学級定数の削減は求められたらいいと思う。市費教員も考えたらいいと思う。

小中一貫教育は、小学校と中学校の間にある不合理を合理化できる。重複する行事の整理、課題の共有。先生方は雑務に追われている。小学校でも中学校でも、同じような行事をしている。一回でもいいのではないか。小中一貫教育はここが進む。また課題の共有ができる。これをするによって、自分はどこに力を入れたらいいかが分かってくる。この考え方は教科指導にもあてはまる。1・2年生の生活科と、3・4年生の理科社会の重複。やっと生活科の見直しの時期がきた。校区探検をしても、3・4年生の理科社会との重複があるだろう。もっと整理できる。学校の先生は授業に力を注がないといけないのに、授業外のことに力を取られすぎている。もちろん、1学級の人数を減らして教員をもっと増やしてということも言うべきだと思う。同時に、こういう教育をやりたいから人を増やして欲しいという言い方が必要ではないか。

**【何森委員】**

第1回の会議では、メリット・デメリットを整理して出してほしいとお願いした。働き方の観点としてどうなのかとか。制度化して良いところと良くないところ。運用してうまくいったこととうまくいかなかったことを整理して示してほしい。これまでの取組み、教員の働き方はどうだったか等。

**【松本副委員長】**

働き方については別途考えていきたいが、とにかくさまざまなことを協議しないといけないので、時間がない。会議の持ち方については考えたいと思う。

西川先生に質問。御池中は、現在一中三小ということだが、小学校の名前は怎么样了のか。小中一貫教育は、小学校1校中学校1校というイメージがあるが…。

**【西川教授】**

御池中学校に、3つの小学校から進学している。小学校は5年生まで在籍。6年生から中学校に行く。小学校はそれぞれある。中学校区で育てるから小中一貫教育。

**【川本委員】**

今年度はあと2回の予定ということだが、話し合うことは多岐にわたる。必要であれば会議の回数を増やしてもよいと思う。

**【何森委員】**

意義の少ない会議を重ねても仕方がないので、中身のある会議、質的なことも考えてい

ただきたい。

**【和泉委員長】**

十分な協議の時間がなかった。時間の面については、次回以降改善したいと思う。次回、どのように進めていくか。小中一貫の「推進会議」としているのので、こんな風に進めていきたいという案を示しながら進めていきたい。

6. 今後の予定

**【角銅委員】**

全員揃わない場合もあると思うが、次回は11月18日（木）で調整したい。時間についても少し早める方向で。

## 主な市内校種間連携教育について

岸和田市教育委員会 学校教育課

### (教員間の連携 例)

#### ◆めざす子ども像の設定、校区共通の取組み

中学校区でめざす子ども像を統一し、同じ視点で校区の子どもたちを育てている。ある校区では、校区の合言葉を考えたり、大事にすること等を整理したりして、それをポスターにして掲示している。また、校区の子どもたちの課題にアプローチするために、校区で共通した取組み(立腰・瞑想、朝読書 等)を行っている。

#### ◆系統立てたカリキュラムづくり

専科加配教員が中心となって、中学校区で統一した外国語のカリキュラム作りを行っている。

#### ◆合同研修

幼稚園教員が小学校の研究部に入り、小学校の研究授業に参加したり、討議会に参加したりする。また幼稚園での園内研の様子や子どもの見方などを小学校の教員と共有している。

#### ◆合同連絡会

生活指導担当者、研究主任、学力向上担当者等、各担当で校区内の連絡会を実施している。情報の共有、課題の共有、その他連絡調整を図り、校区で合同の研修会等も企画している。

#### ◆進路や入学に係る連絡会

子どもたちの状況について共有するために、適宜進学先の学校との連絡会を実施している。

### (子ども間の連携 例)

#### ◆校区共通の取組み

上記の教員間の連携と関連して、校区共通の取組みを行っている校区がある。ある校区では、校区のマスクキャラクターを児童会・生徒会で作り、校区の挨拶運動等で活用している。

#### ◆授業や行事の交流

年間の各種行事(七夕、クリスマス 等)を、他校園種合同で実施している。中学校では、入学前の小学生を招き、中学校の学習体験を実施している。

10月12日 岸和田市小中一貫教育推進会議 資料 西川信廣・京都産業大学  
◎小中一貫教育導入の要因①中1ギャップ(リセット)、広がる学力格差への対応  
②学校統廃合 ③私学抜け対策

→小中一貫教育は手段! 目的は教師の指導力向上と地域とともにある学校づくり。

☆コミュニティ・スクールは必然であり、義務教育学校は大きな可能性を持つ。

(京都市立の全ての学校はコミュニティ・スクール 中学校区で子どもを育てる意識)

<先進事例の紹介>小中一貫教育の類型(京都市の定義)をもとに

#### A:施設一体型

京都市立開晴小中学校(2中5小統合)、京都市立凌風学園(1中3小統合)、広島県府中市立府中学園(1中4小統合)等々

\*府中学園(義務教育学校)…児童生徒数840名、特別支援学級9学級(51名在籍)

☆不登校生徒の激減に加え、施設一体型小中一貫教育校の実践の中で特別支援教育の質的向上が明確となる。(11月の全国大会で発表予定)→まさに、実践の成果!

府中学園池田校長談→小中一貫教育は小学校と中学校の間に存在する不合理を合理化できる(重複する行事の整理、課題の共有等々)

#### B:施設併用型・6年生は4月1日から中学校で学ぶ(文科省の定義では施設隣接型)

京都御池中学校、東山泉学園等々 5-4制

\*京都御池中学校…1中2小でスタート、児童数が急増し現在は1中3小

新しいコンセプトの校舎のパワー 御池創生館(0歳から100歳までが共に学ぶ)

新しいコンセプトの学び「探究科」 堀川高校との連携も→著しい学力向上

\*東山泉学園(義務教育学校)…1中1小(東校舎、西校舎 徒歩10分の距離)

6年生も制服 教科担任制・定期考査の実施 教員間の学び合い(PLC)の広がり

<5-4制スタート時の保護者・一部教職員の不安>

★6年生がいないなんて小学校じゃなくなる。中学生にいじめられる!

→中学校区を地域と捉え、15歳の子どもの像を共有しつつ地域で子どもを育てる。

→保護者の不安は完全な杞憂。中3生の成長が著しい!

#### C:施設分離型

分割校校区の工夫…京都4・9きずなプロジェクト 小中一貫教育の日の設定

★小中一貫教育の失敗? 例:交流に始まりイベントに終わる小中連携教育

例:出前授業、合同イベント(学習発表会、運動会等々)、年に1回の中学登校等々

★キーワードは「制度と運用」 メリット、デメリットではない!

★制度を変えなければ教員の意識は変わらない!(5-4制、4-3-2制等)